

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月30 日

【評価実施概要】

事業所番号	4270104617		
法人名	有限会社 東雲		
事業所名	グループホーム つつじが丘しのため		
所在地	〒851-0102 長崎市つつじが丘4-15-1 (電話)095-813-3306		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(平成19年9月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 16年12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	6 人	常勤	5人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	実費相当額 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月16日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	名		要支援2	1名	
年齢	平均 79歳	最低	67歳	最高	88歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	森医院、本田整形外科医院、北野歯科、西諫早病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの成り立ちは、管理者の当たり前のことを当たり前にやりたいとの思いと実母の介護経験を活かして、平成16年12月に開設された。閑静な住宅地の日当たりの良い一角に建設された当ホームは、エレベーターも完備され、車いす対応可能で各フロアや浴室スペースも広く、機能的な構造である。近隣には大型スーパーや病院、保育園などがあり、利便性も高い。スタッフは理念に基づいた家庭的な雰囲気の中、心温まる態度で入居者に接しており、質の高いケアが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを活用し、積極的な取り組みがなされ、理念や入居者・家族の権利、義務の明示や居心地の良い共用空間作りなど、早急に対策が取られ、改善がみられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は職員全員での自己評価は実施できていない。全員で取り組むことの意義を十分理解し、質の確保、向上のために、日々取り組んでいくことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	構成メンバーや会議の内容をさらに検討し、会議をホームと地域との関係作りの場と捉え、地域にとけ込んだホームの構築に努めていくことを望む。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見を十分に聞く場面作りを行い、便りの発行や満足度アンケート調査の実施、家族会の発足など、ホーム側からの積極的なアプローチをされる等の取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者を中心に自治会への働きかけを徐々に行っている。住宅地に建設され、地域との繋がりが比較的取りやすい環境にあり、今後ますますの連携強化に努めていくことを期待する。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念は、今も変わらずに日々の介護の現場に活かされている。地域密着型としての新たな理念を、現在、検討中である。		地域密着型サービスの役割を理解し、実践可能な新たな理念を作り上げ、日々の介護に繁栄させていくことを望む。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、理念を唱和し、日々のサービス提供に繁栄させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、管理者自ら積極的にリーダーとなり、入居者と共に地域のために活動している。近くの保育園から訪問もあったが継続的な活動にまでは至っていない。		自治会での事業所の存在は、年々大きくなっているため、さらなる積極的な参加と、また近隣の教育機関・老人会との交流も今後発展させていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員で取り組むまでに至っていない。前回の改善項目については、スタッフ間で検討し前向きな取り組みがなされている。		自己評価は、日々の介護の振り返りの場である。職員全員が取り組むことにより、統一した意識の基でホームの質を向上することに繋がることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1回、民生委員、地域包括支援センター職員、家族数名、ホーム長で現在開催されている。意見交換はなされているが、会議の意義や役割を全員が十分に理解するまでには至っていない。		構成メンバーを検討し、開催可能な状況を設定し、グループホームと地域とが密接な繋がりが持てるよう、有意義な会議の持ち方を検討していくことに期待したい。

グループホーム つつじが丘しのため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の相談は必要時に行っているが、積極的に連携を図るまでには、現状では至っていない。		運営推進会議で得た人脈を基に、今後必要時に限らず折に触れ、関係作りを強化し、協働関係を継続していくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	H19年8月より主治医と家族、スタッフ間の連絡ノートを作成し、健康状態の報告は随時行っている。暮らしぶりは面会時や変化が生じた場合に電話にて報告を行っている。		今後、年一回程度便りの発行を検討中である。口頭による報告に留まらず、毎月明細書を発行しているため、その場を活かし手紙や写真など文章化して定期的に家族へ報告するなど、より積極的な取り組みに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設置しているが、家族からの意見はなく活用されていない。		家族会の発足や満足度アンケートの実施、行事参加時の家族の反応の確認など、家族から意見を聞く場面の設定を、積極的に行うことを望む。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後、諸事情により職員の離職が多く、利用者、家族へのダメージも避けられない状況にあった。交代前後の利用者への説明や対応の仕方、家族への配慮が十分とは言えない。		利用者、家族との信頼関係構築のために、ダメージを防ぐ配慮を十分に行い、人材が定着できる職場作り、教育研修の強化に努めていくことに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、法人外の研修には参加しているが、年間を通じた計画的な研修体制は今のところ取られていない。また、研修報告書の回覧がスタッフ全てに定着しておらず、知識の共有が不足している。		連絡協議会での月一回の研修参加の徹底や、スタッフ全てが研修内容を共有できる体制作りの検討を望む。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に連絡協議会の参加を積極的に行っている。今後も勉強会の継続、相互訪問の検討をしていく方針である。		

グループホーム つつじが丘しのため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人家族にまず見学に来てもらい、ホームの雰囲気を体感してもらうことから始めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の側にいる時間を長く持つよう配慮し、心を開く関係作りに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のコミュニケーションの中から思いや意向を聞き出し、日々の介護に取り入れている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送り時に、スタッフより意見を聞きながら介護計画を作成しているが、本人、家族の意見の繁栄は十分とは言えない。</p>		<p>家族への報告や面会時に折に触れ、介護計画について意見を求め、本人、家族、スタッフ、関係者が一体となってより良い計画の作成に努めることを望む。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当者がモニタリングを行い、スタッフからの意見を聞きながら計画の見直しを全員で検討している。モニタリングを行いやすくするために、日々の個人記録を介護計画に沿った書き方に変更されおり、アセスメントを意識した記録の検討を行っている。</p>		

グループホーム つつじが丘しのため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	掛かり付け医の受診介助は原則、家族に依頼しているが、状況に応じて受診介助を行っている。外泊外出も本人、家族の要望に合わせ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、家族間の連絡ノートを作成し、本人の健康状態を把握し主治医とスタッフ・家族との情報共有の場としている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療加算体制を取っており、看取りの指針について本人・家族の同意を得ている。当ホームとしての方針は、主治医の指示に従うこととしているが、今のところ十分な話し合いはまだできていない。		本人、家族、主治医、スタッフ全員での話し合いは、今後、臨機応変に行っていくことと方針の共有化に努めていくことに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から、言葉かけや対応については十分気を付けるよう管理者、職員ともに意識されている。記録物は鍵の掛かるところに保管されており、取り扱いには気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、入浴や食事以外は絵を描いたり、体操をしたり、個人でリハビリを行ったりと本人のペースを大切にしながら、希望に添って支援している。		

グループホーム つつじが丘しのため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の段階からその日の本人の状態を見極めながら誘導し、家事に参加してもらっている。職員も同じテーブルと一緒に同じ食事を頂いており、楽しい会話が聞かれ、和やかな雰囲気だった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今のところ、人員の問題から入浴日は週3回(月・水・金)に決められている。しかし、本人、家族から習慣や好みを十分聞き、個別にあった入浴の支援とまでには至っていない。		人員の問題もあり、困難な場合もあるが本人の生活習慣や希望に合わせた入浴回数、方法、時間帯の提供がなされることが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントシートを用いて、本人の生活歴や楽しみごと、会いたい人などの情報収集を行い、自宅まで一緒に掃除に行ったり、友人へ連絡をしたりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2ヶ月に1度、全員での外食のため外出している。しかし、一人ひとり希望を聞き入れた個別の外食は今のところ、十分とは言えない。		人員配置を考慮し、少人数での外出を可能な限り増やし、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいくことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を重視して、玄関は常時施錠している。スタッフが鍵をかけていることで安心してしまい、見守りの姿勢が不十分になっていることがあった。		鍵をかける、かけないにかかわらず、見守りの方法を徹底し、安心、安全を支える支援を行うことが大切である。鍵をかけないでも安全に過ごせる工夫を検討していけることが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1~2回通報、避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練はまだ実施していない。又、非常用食料、備品の準備も今後検討予定である。		災害対策については、事業所内のみならず、地域住民、警察、消防署などの協力を得て、支援体制の整備に努めることが望ましく、広域避難場所の把握や住民参加型の訓練の実施を期待したい。

グループホーム つつじが丘しのため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は必要に応じて個別に記録している。栄養バランスは栄養士などへの相談は今のところ、実践していない。治療食への対応も今のところ、不可能であった。		献立については、さらなる食に対する質の向上に向けて、市町村や協力病院所属の栄養士や食改グループなどへ相談し、また治療食への対応も専門的アドバイスをいただくことに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部評価以降、時計の設置やカレンダーの工夫等改善がみられており、積極的な居心地良い共有空間作りに努力されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン以外はベット、タンスなど本人の使い慣れた物を取り入れ、居心地よく個別性の高い居室作りに、工夫されている。		